

本論文は

世界経済評論 2023年9/10月号

(2023年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

脱炭素産業革命

帝京大学先端総合研究機構教授

田沼唯士



【著者】郭 四志（かく しし）

帝京大学経済学部教授

【発行】筑摩書房，2023年3月刊

【判型】新書判，400ページ

【定価】本体1,150円＋税

本書は著者が2021年10月に上梓した『産業革命史 イノベーションにみる国際秩序の変遷』の姉妹編である。著者は『産業革命史』において、1760年代から1860年代まで約100年間続いた第1次産業革命から、現在進行中の「第4次産業革命」と本書で扱う『脱炭素産業革命』までの経済発展の歴史を、「イノベーション」の観点から俯瞰的に解説している。第1次産業革命の始まりから約150年後に、シュンペーターは生産の質的・不連続的な発展、すなわちイノベーションを経済発展の本質と位置付けた著書「Theorie der wirtschaftlichen Entwicklung, 1912, 邦訳 経済発展の理論 塩野谷祐一他訳 岩波文庫」を公刊した。ここでは、第1次産業革命が駆動した軽工業から、第2次産業革命によって重工業が生産活動の主流となって行く過程が例示されており、イギリスで始動した産業

革命が欧州各国、更には米国で次の段階にまで発展した状況をつぶさに観察した結果が反映された著書であると言える。

一方、本書で扱われる「脱炭素産業革命」は「スタート段階」であり、今後出現するであろう「次世代産業革命」の先導役として位置付けられていることが興味深い。シュンペーターの歴史的な著書から110年を経た現代の経済学者として、シュンペーター以降の研究成果を踏まえた上で、中国、インド、米国などの温室効果ガス（greenhouse gas, GHG）排出の大半を占める大国と、プロアクティブに脱炭素に取り組む欧州各国、そして省エネルギー技術、環境汚染対策技術、高効率ガスタービン・蒸気タービンコンバインドサイクル発電技術等で一日の長がある日本の公文書、科学技術文献、統計資料を丹念に調査研究して、エビデンスをもって脱炭素産業革命の始動の状況を描き出し、今後の進展の方向を考察する本書は、同時代を生きる私たちにカーボンニュートラル実現のための戦略の基盤となる大局的で複眼的な情報を提供してくれる。

本書は、脱炭素産業革命の駆動力は蓄電・水素発電、CCUS、パワー半導体・再生可能エネルギー、次世代原発、モビリティ技術などの複合技術に代表されるとしている。現在、世界各国がカーボンニュートラルの目標を目指して関連技術開発とイノベーション創出の施策を加速しており、産業・エネルギー分野のみならず、社会全体の脱炭素化の機運が高まっていると分析している。更に、第4次産業革命を牽引しているIOT・AI技術は脱炭素産業革命において重要な役割を發揮しているとしつつも、中長期的にみると脱炭素産業革命段階の脇役的な技術に過ぎないと看破している。

本書は、脱炭素に関連する統計資料と技術動向の解説が豊富で、経済学の専門知識がなくとも十分に理解できる。高校生、大学生、理工系の研究者・技術者を含めて、現在進行中の脱炭素の取り組みに興味がある全ての方に有用な一冊である。

（たぬま ただし）